

HART Newsletter

Vol.1
1999.12

〒730-0051 広島市中区大手町5丁目7番10号
アクションビル3F TEL 082-244-3866
FAX 082-244-3864



巻頭言

医療法人ハート 理事長
広島HARTクリニック 院長
高橋克彦

1990年10月16日に高橋産婦人科を創設して以来、本年10月をもって、広島HARTクリニックは創立10年目に入りました。この間の生殖補助技術（ART）の進歩の速度は、私の予想をはるかに越えるものでした。1992年、私たちが国内最初の精子注入による顕微授精に成功し、その技術によってその後多くの男性不妊症の夫婦が救われ、さらに顕微授精技術の応用であるAssisted Hatching（AHA）法や、新しい胚盤胞移植法で体外受精による妊娠率は飛躍的に向上しました。そのお蔭で、開院当時はまだ多くあったARTに対する偏見や疑問も薄れ、当クリニックでのART希望の患者さんの数も飛躍的に増加し、それも全国から来院されるようになりました。そのため、当初の高橋産婦人科の規模では対応できなくなり、1993年新たに医療法人ハート広島HARTクリニックとしてARTに集中できるシステムを作り、同年に東京へHART IVF CENTER TOKYOを開設、1997年に大阪HARTクリニックを開設して患者さんのご要望に答えるべく努力してまいりました。その結果、私たちのクリニックで、確認できただけで本年10月までに1027名の方から1224人の体外受精による赤ちゃんが誕生しました。

このような予想を大きく越える結果に喜んでいる反面、私たちが出来なかった事にも反省しなければなりません。それがこのNewsletterの発行です。急速に進歩した新しい技術及びその有効性について、国内外の学会では積極的に発表し、その都度マスコミなども報道しましたが、私たちが皆さんへ易しく解説、説明する機会は少なかったと思います。個々の患者さんには説明しても、これから治療を考えている方や、HARTクリニックの内容を知りたいと思われている方には情報が不足していたと反省しています。

以上の経過より、今回第一号を発行することになりました。今後は年3回の発行を予定しております。内容としては、ARTの現状、新しい技術の紹介、問題点について述べると共に、HARTクリニックの成績や皆さんの先輩からのメッセージなども紹介したいと計画していますので、今後HART Newsletterのご愛読をお願いします。

医療法人
ローズレディースクリニック等々力
HART IVF CENTER TOKYO

〒158-0082 東京都世田谷区等々力2-3-18
TEL(03)3703-0114 FAX(03)3704-8752

1993年に広島ハートクリニックの分院として、HART IVF CENTER TOKYOを東京都世田谷区の石塚産婦人科医院に併設し、東京での生殖補助医療がスタートしました。1992年、全国でも初めて成功した顕微授精法（囲卵腔内精子注入法）は、当時東京でもHARTのみで可能な技術だったため、多くの男性不妊の患者さんが来院されました。

1995年、高橋先生の慶応大学産婦人科の後輩である岡親弘先生を院長に迎え、院名もローズレディースクリニック等々力と改名し、不妊症治療を重点的に行えるようシステムを変えました。当院は入院が可能のため遠方よりの患者さんにも安心して生殖補助医療が受けられると好評です。そのため関東地方はもちろん、静岡、群馬、長野、遠方は山形、新潟より、多くの患者さんが来院され、生殖補助医療を受けられています。遠方より来院される患者さんに、最小限の来院回数と最先端の医療で、1人でも多



スタッフ一同 (中) 岡親弘院長

くの方が妊娠され、母と父になる事と、1人1人の患者さんに合わせた医療が出来る事を、スタッフ一同、心より望んで頑張っています。

医療法人 一樹会
大阪HARTクリニック

〒530-0001 大阪市北区梅田2-6-20
(スノークリスタルビル10F)
TEL(06)6341-1556 FAX(06)6341-1557

大阪HARTクリニックは、日本で初めて囲卵腔内精子注入法による顕微授精に成功した広島HARTクリニック院長 高橋克彦先生の、顕微授精が関西の患者さんにも容易に受けられる様にとの志を、慶応大学産婦人科の後輩であり大阪出身の富山達大先生が引継ぎ、平成9年4月15日、大阪の中心地・梅田に開院し、高橋先生は同ク



スタッフ一同 (中) 富山達大院長

リニック顧問に就任されました。

開院以来、広島での蓄積を集大成し、医療技術は無論、不妊専門クリニックとしてのハード面、ソフト面のすべてに渡って、より理想に近づけるべく努力を重ね、日進月歩のこのARTの分野で絶えず世界トップレベルの医療を大阪の地で提供することをモットーとし、日々、臨床面・研究面において向上するよう情熱を傾けています。また、HARTクリニックとしてチームを組むことにより、より幅の広い、より奥の深い医療が可能となります。

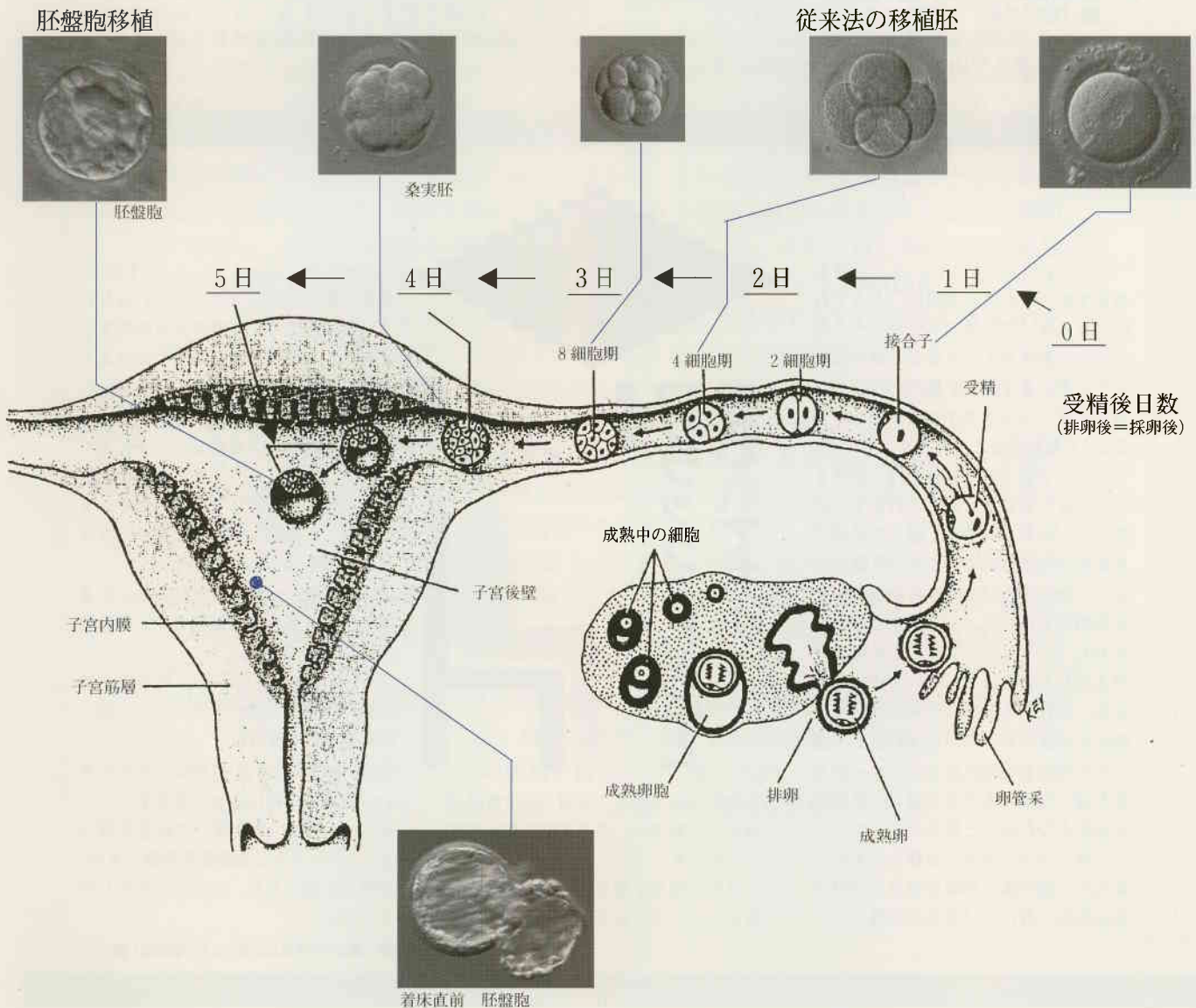
現在、開院後2年半が過ぎ、満足できる成績を収める事が出来、多くの患者さんに喜んでいただいています。当院の毎週木曜日に行っている無料電話相談が大きく新聞紙上に取り上げられたりもしました。今後、多くの難治性不妊症の患者さんにHARTクリニックの精神が伝わり、妊娠する事はもちろん、様々な点で満足していただける様に頑張っていきたいと考えています。今後HART Newsletterで、多くの朗報をお届けしたいと考えています。

胚盤胞（はいばんほう）移植

自然妊娠では、卵は卵管内で受精し、受精卵は分割を繰り返しながら卵管内を進み、最終的に胚盤胞と呼ばれる状態になった頃、子宮内にたどり着きます。この過程には排卵後約5～6日かかり、さらに子宮に到達後、約1～2日して子宮内膜内に着床することが知られています。通常の体外受精・胚移植法では、この自然妊娠とは違い、胚は採卵後2～3日目に子宮内へ戻されます。これはヒトの場合、胚は子宮内でも卵管内同様に発育できるため、体外で長く培養するより早めに子宮内に戻す方が良いと考えられたからです。しかし何度も良好な胚を戻しても着床できない人の中には、子宮内環境が悪いため胚が発育できないと推測される人もいます。その様な人には胚を体外で胚盤胞まで

培養し移植する方が良いのではと考えられていましたが、技術的に胚盤胞まで培養するのが難しかったため、臨床応用ができませんでした。

しかし、1997年頃より新しい培養液の開発で胚盤胞までの培養が容易になり、胚盤胞移植法が従来法より妊娠率が高いという報告が出てきました。HARTクリニックでも同年7月にわが国最初の胚盤胞移植による赤ちゃんが誕生しました。現在のところ、この方法は通常体外受精不成功例で胚盤胞まで育った人には妊娠率が高く理想的な方法ですが、胚盤胞まで育たない人も5～20%あります。特に高齢の人で多くなります。従来法で判らなかつた胚の質の問題が、この方法でさらに明らかになります。



学会報告

HARTクリニックでは、積極的に国内外の学会に参加して世界の最先端の医療技術をいち早くとり入れ、診療のレベルアップを図っています。また同時に学会発表も積極的に行い、その成果は高く評価されており、このコーナーでは、本年度参加した国内外の学会について皆様にご報告したいと思います。

〈1999年度〉

I. 5月9日～14日 第11回世界体外受精会議 於シドニー市（オーストラリア）

2年に1度開かれる、体外受精に関する世界で最も大きな学会です。今回、広島からは向田副院長をはじめとして5名、大阪からは2名が参加しました。向田先生は、今話題の胚盤胞移植（3ページ参照）とVitrification法という最新の簡易胚凍結法に関する2題の口頭発表を行い、会場から好評を得ました。HARTクリニックが世界的に見ても高水準の技術を維持していることを改めて確認できました。

II. 6月25日～28日 第15回ヨーロッパ生殖医学会（ESHRE） 於トゥール市（フランス）

ヨーロッパの生殖医療の現状を知らせる学会です。高橋院長と平山カウンセラーが参加しました。

不妊症に対するカウンセリングの重要性、特に夫婦のセクシュアリティの問題が提起されていたのが印象的でした。

III. 7月8日～9日 第17回日本受精着床学会 於熊本市

日本における先端不妊症治療に関する最大の学会です。HARTグループからも、広島、大阪、東京の多くのスタッフが参加しました。また、高橋院長は原因不明受精障害例に対する新しい排卵誘発剤について、向田副院長は胚盤胞移植とVitrification法についての2題、山内技師はハムスターの胚発生に関する基礎的研究、平山カウンセラーは胚盤胞移植を受ける患者の心理について、以上5題の口頭発表を行いました。

我が国における不妊症治療の発展のため、HARTグループは学会で指導・啓蒙的な役割を担っています。

IV. 9月25日～30日 アメリカ生殖医学協会総会 （アメリカ・カナダ不妊学会） 於トロント市（カナダ）

毎年開かれ世界の最新情報が集まる重要な学会です。本年は広島から向田副院長、大阪から富山院長と看護婦・技師2名ずつ参加しました。この学会でも胚盤胞移植、Vitrification法の発表が多く見られました。

「リラックスしなさい」とよく言われますが、それでは実際に「どうすればリラックスできるのか」ということについて教えてもらえることは少ないようです。さらに、子供のいない方に対して「リラックスすれば子供ができるよ」と無神経なことを言う人もいて、そのせいで傷ついた経験を持つ患者さんも少なくありません。これまでの研究から、ストレスを強く感じる状況にあるせいで不妊症になるという証拠はなく、むしろ不妊症やその治療の様々な負担がもとでストレスが生じる、すなわち「リラックスしにくくなる」と考えられるようになっていきます。ですから、これからリラックスについてお話するのは、皆さんが日々の生活で感じる不安や心の疲れをコントロールできれば、今よりももう少し毎日が快適になるかもしれないと思うからです。

リラックスの方法には様々なものがある、専門家に指導を受ける必要があったり、身につけるのに時間がかか



第1回 「リラックスしろ」と 言われても……

るものもあります。今回ご紹介するのはとても意外な、でも実際に試しやすい方法です。

日中、知らず知らずのうちに、ため息をついたり、あくびをしったりするこ

とがあなたにもあるでしょう。それは、身体に酸素が足りなくなっているという合図なのです。酸素不足を解消するために、身体はため息をついたりあくびをしったりしているのです。ため息は、ものごとが自分の思ったように運ばないときやストレスを感じたときによく出ます。実際に、ため息は身体の緊張をほぐす効果を持っているのです。それでは、ため息を利用してリラックスする練習をしてみましょう。

① 椅子に座ったままでも、立ったままでも、どちらでも結構です。背筋を伸ばしてください。

② 「ふうっ」と音をたてながら、肺の中の空気を一気にきだして、深いため息をつきます。

③ 息を吸うことは考えなくてください。空気は自然に入ってきます。

④ 8～10回、この深いため息を行って、リラックスした感覚を体験します。必要だと感じたら、いつでも実行してください。